

ワークショップ「新興証券市場と中小企業金融」

新興証券市場の動向とその役割

岡本 志郎（大阪証券取引所）

最近の株式市場を見ると企業収益が大幅に改善し、設備投資が増加するなど景気回復が見られ、株式市況も年間を通じて堅調に推移している。上場会社の延べ個人株主数も新規上場会社数が増加する中で 8 年連続して増加している。また、新規公開市場は、投資信託の銀行での窓口販売の解禁やネット証券の取引拡大に伴い個人投資家の投資意欲に支えられ活況を呈している。特にヘラクレスやマザーズでは過熱気味と思えるほどの新規公開熱が高まっており、それを受けたベンチャー企業の公開意欲も高まりを見せている。また、未公開株式投資を対象とする投資ファンドの拡大等により従前よりもさらにアーリーステージの段階から投資資金が企業に注入されることにより、ベンチャー企業の成長スピードが加速されており、それに伴い上場予備軍も増加している。新規上場会社について、売上高、利益水準、純資産等、いずれも全体的に小規模化が進んでいるなかで、中小証券会社による主幹事銘柄の件数が増加している。

しかし、新規公開株市場が活況を呈しているなかで本来的な株式公開の目的を踏まえ、公開に踏み込んだ結果、ガバナンスやディスクロージャー等において不祥事が発生している。

最近 5 年間にヘラクレス、マザーズ及びジャスダック等の新興証券市場に上場した新規上場会社の概要、公開前の資本政策及び上場時のファイナンス状況等を分析することにより、新興証券市場の特徴を解説する。